

環境マネジメント

マネジメント情報

考え方

近年、地球温暖化などの気候変動に伴う地球規模での問題が深刻化し、人々の暮らしや企業の事業活動に影響を与えています。特に、近年激化している気候変動による異常気象の多発や生物多様性の喪失は、不二製油グループ製品の主原料である農産物の安定的な調達を脅かしかねず、経営上の脅威です。よって事業活動に地球環境への配慮を組み込むことは経営基盤そのものと考えています。当社グループは、2015年10月に以下4項目からなる「環境基本方針」を定めています。さらに、2018年に策定した、2030年に達成を目指す「環境ビジョン2030」において、グループ全体のCO₂排出量の削減、水使用量の削減、廃棄物量の削減に対するコミットメントを表明し、環境への取り組みを加速させました。CO₂排出量の削減目標は、Science Based Targets^{※1}に認定されています。また、気候変動が事業に及ぼす影響を認識し適切にステークホルダーの皆様に対して情報開示することが重要であると認識しています。2019年5月にTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）^{※2}に対する賛同を表明し、TCFDの提言に基づき、「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」の4項目について、積極的な情報開示を推進しています。

※1 Science Based Targets：パリ協定が求める水準と整合した、5年～15年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のこと。

※2 TCFDの提言に基づく情報開示については、以下のURLをご参照ください。

➤ <https://www.fujioilholdings.com/sustainability/risk/>

環境基本方針

1. 環境保全活動の継続的な改善に努める。
2. 環境関連の法およびその精神を順守する。
3. 環境に配慮した製品開発・技術開発に努める。
4. 社会とのコミュニケーションに努める。

➤ 不二製油グループ 安全品質環境 基本方針（PDF形式、306KB）

推進体制

不二製油グループ本社ではサステナビリティ経営を推進すべく、2015年にESG委員会を取締役会の諮問機関として設置しました。2022年に名称をサステナビリティ委員会^{※1}へ改め、同委員会統括のもとで環境分野を含むサステナビリティ活動を展開し、進捗や成果を確認しています。

また、環境分野を含むESGマテリアリティ^{※2}を特定し、それぞれに管掌者^{※2}を定め責任を持って活動する仕組みを整えています。

※1 サステナビリティ委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

➤ https://www.fujioilholdings.com/sustainability/sustainability_management/

※2 ESGマテリアリティの詳細とそれぞれの管掌者については、以下のURLをご参照ください。

➤ <https://www.fujioilholdings.com/sustainability/materiality/>

目標・実績

環境ビジョン2030

	2030年目標 ^{※1}	2021年度実績 ^{※1}	達成率
CO ₂ 排出量の削減	スコープ1 ^{※2} +2 ^{※3} 総量40%削減（グループ全体）	21%削減	52%
	スコープ3 ^{※4} （カテゴリ1 ^{※5} ） 総量18%削減（グループ全体 ^{※6} ）	0.1%増加	0%
水使用量の削減	原単位 ^{※7} で20%削減（グループ全体）	25%削減	124%
廃棄物量の削減	原単位 ^{※8} で10%削減（グループ全体 ^{※9} ）	6.1%削減	61%
資源リサイクル	再資源化率99.8%以上を維持（国内グループ会社）	99.47%	未達成

※1 基準年：2016年。

※2 スコープ1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出。

※3 スコープ2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出。

※4 スコープ3：事業者の活動に関する他社の排出（カテゴリ1～15）。

※5 カテゴリ1：原材料。

※6 インダストリアル フード サービス（オーストラリア）は除く。

※7 生産量当たりの水使用量。

※8 生産量当たりの廃棄物量。

※9 廃棄物量は、インダストリアル フード サービス（オーストラリア）は除く。

考察

CO₂排出量（スコープ1+2）の削減

前年の19%削減に対し、2021年度は21%削減となり、2ポイント好転しました。目標の40%削減に対しては、達成率52%となりました。新型コロナウイルス（COVID-19）の影響に改善の兆しが見えてきたことに伴い生産量が増加しましたが、CO₂排出量は対前年で減少しました。国内では、2020年度に設置したコージェネレーションシステムおよび太陽光発電や、生産プロセスの変更の効果が1年間を通じてあったことが寄与しました。海外では各社の節電や設備保全などによる省エネ活動および、2020年度に導入したウッドランド サニーフーズ（シンガポール）の太陽光発電の効果が1年間を通じて出たことが寄与しました。

CO₂排出量（スコープ3カテゴリ1）の削減

前年の6%増加に対して、2021年度は0.1%増加となり、5.9ポイント好転しました。目標の18%削減に対しては、達成率0%となりました。生産量の増加に伴い、原材料購入量が増加したことが要因です。

水使用量（原単位）の削減

前年の22%削減に対し、2021年度は25%削減となり、3ポイント好転しました。目標の20%削減に対しては、達成率124%となりました。新型コロナウイルス（COVID-19）の影響に改善の兆しが見えてきたことに伴い生産量が増加しましたが、対前年で水使用量は減少しました。国内では、生産設備の洗浄方法を見直したことが洗浄水の削減につながり、水使用量の減少に寄与しました。海外では、生産設備の洗浄回数削減や漏水対策などが寄与しました。

廃棄物量（原単位）の削減

海外グループ会社の一部の拠点で、自社基準で廃棄物量から除かれる物量（有価売却など）が廃棄物量に含まれていたため、目標基準年の2016年度以降、廃棄物量の修正と原単位の再計算を行いました。

原単位は、前年は修正前の対基準年0.6%増加から5.1%削減と5.7ポイント好転し、2021年度は6.1%削減と、さらに1.0ポイントの削減となりました。目標の10%削減に対して、達成率61%となりました。原単位の削減は、前年に比べ生産数量が3.2%増加する中で、廃棄物量を

2.2%増加に抑制できたためです。廃棄物量の抑制には、国内外の各拠点での汚泥含水率削減による廃棄物量削減や生産中に発生する製品口ス削減などが寄与しています。

資源リサイクル

目標99.8%以上に対して前年が99.37%だったのに対し、2021年度は99.47%となり、0.1ポイント向上しました。廃棄物の分別を徹底することで、再資源化を推進しています。

具体的な取り組み

環境監査

不二製油グループでは、環境マネジメントの国際規格であるISO14001などを参照、準拠して、グループ全体の環境保全活動の推進、改善、向上を図っています。

認証取得事業所では「外部審査」による検証、安全・品質・環境の「内部監査」を毎年実施しており、海外事業所では不二製油グループ本社による「安全品質環境監査」を実施して、検証、評価して改善を促すことでグループ全体のレベルアップを図っています。新型コロナウイルス（COVID-19）の影響により、グループ会社への海外渡航を伴う直接的な啓発活動は実施できませんでしたが、オンライン対話や、現地スタッフにウェアラブルカメラ※を装着し現場に入ってもらい、ライブ動画を通じてコミュニケーションをとることでグループ会社の意識向上に取り組みました。

国内グループ会社のうち不二製油（株）では、ISO14001に基づく「外部審査」を毎年（1、2年目：維持（サーベイランス）審査、3年目：更新審査）受審することに加えて、各グループ会社の生産管理向上を目的に、認証取得している事業所に対して、安全・品質・環境の「内部監査」を毎年実施しています。2021年度の「外部審査」および「内部監査」のいずれにおいても、環境関連の不適合に関する指摘はありませんでした。

「内部監査」では、環境関連法規制および環境規程に基づく活動状況の確認にとどまらず、なぜそれが重要なのかを説明しながら進めています。監査を通じて各グループ会社の取り組みを検証、評価し、改善すべき点を助言することにより、環境保全活動の推進、改善、向上を図っています。

海外グループ会社では、品質・安全の専門知識を有する戦略立案組織である不二製油グループ本社の生産性推進グループと、サステナビリティ推進グループが安全品質環境監査を実施しており、各グループ会社の取り組みを検証、評価し、改善すべき点を助言し、グループ全体のレベルアップを図っています。2021年度は生産拠点4カ所に対して実施しました。

※ ウェアラブルカメラ：体に装着しハンズフリーで撮影するカメラ。



海外グループ会社での監査（インダストリアルフード サービス（オーストラリア））



新型コロナウイルス（COVID-19）の影響でオンラインでの実施となった環境監査

マネジメント認証の取得

不二製油グループでは、法令の遵守や環境保全活動を推進するために、ISO14001※の認証を取得しています。

国内グループ会社では、生産拠点を有する4社中、国内の最大生産量を担う不二製油（株）とオーム乳業（株）の2社で取得しています（拠点取得率50%）。これら2社の生産量の国内グループ生産量に占める割合は約99%です。海外グループ会社では、生産拠点を有する17社中7社で取得しています（拠点取得率41%）。これら7社の生産量の海外グループ生産量に占める割合は45%です。

また、中国の1生産拠点においてはエネルギーマネジメントシステム（EnMS）の国際規格であるISO50001※認証を取得しています。

※ 最新の認証取得状況の詳細については、以下のURLをご参照ください。

> <https://www.fujioilholdings.com/sustainability/authen/iso14001/>

教育

不二製油グループ本社のサステナビリティ推進グループが、生産性推進グループとともに定期的に海外グループ会社を訪問し、関連部署の責任者および担当者に対して安全・品質・環境に関する教育や啓発活動を実施しています。2021年度は新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で、オンライン会議を通じた環境ビジョン2030などの説明や意見交換会を行いました。2021年度は海外グループ会社の生産拠点9カ所を対象に活動を実施しました。この活動は3～4年で全拠点を一回りするような計画で実施しています。

環境に関する違反および措置

不二製油グループにおいて環境に関する法令違反が1件発生しました。

汚泥について当社が委託した収集運搬業者において許認可を取得していないことが判明しました。

速やかに行政へ報告すると同時に、原因を特定した上で、必要な対策を講じました。罰金・罰則といった行政処分はありませんでした。

なお、本廃棄物の処分については適切に完了しています。

社会からの評価

- ・ CDP投資家質問書（気候変動、水セキュリティ、森林）2021：トリプル A（最高評価）

※ その他の社会からの評価については、以下のURLをご参照ください。

➤ <https://www.fujioilholdings.com/sustainability/evaluation/>

関連資料

ESGデータブック（3.15MB） 